

第9回日中韓少子高齢化セミナー

2021年12月9日（水）の午前11時から午後5時まで、第9回日中韓少子高齢化セミナーが開催された。本セミナーは、昨年（2020年）日本・東京で開催される予定であったが、新型コロナウイルス感染症のために開催が見送られていたところ、今年度、zoomによるオンライン形式で開催されることになったものである（日本側参加者・スタッフはイイノカンファレンスセンターより参加）。午前中に基調講演があり、午後は、セッション1として「少子化の状況と対応」、セッション2として「介護の担い手の確保」をテーマに、三カ国からの発表と討論が行われた。当研究所からは、セッション1のモデレーターとして林副所長、発表者として守泉人口動向研究部第1室長、セッション2のモデレーターとして是川部長が参加した。日本における「少子化社会対策大綱（第4次）」の策定（2020年5月）、中国における「人口・計画出産法」の制定（2021年8月）、韓国における「第4次低出産・高齢社会基本計画（2021～2025）」の策定（2020年）など、三カ国とも少子高齢化に関する大きな政策が出された後の時宜を得た開催となり、各国からは、少子高齢化の現状に関する最新のデータや介護人材確保の政策動向に関する興味深い報告がなされた。本セミナーにより、三カ国に共通する課題や各国の政策対応についての有意義な情報交換を行うことができた。

<プログラム>

○開会挨拶 土生栄二（厚生労働省老健局長）

○基調講演

日本：相川哲也（内閣府子ども・子育て本部審議官）

中国：王海東（中国国家衛生健康委員会老齡健康司長）

韓国：イ・ミンウォン（韓国保健福祉部人口児童政策官）

○セッション1 「少子化の状況と対応」

モデレーター：林玲子（国立社会保障・人口問題研究所副所長）

韓国：チェ・スルキ（韓国国際政策大学院大学教授）

日本：守泉理恵（国立社会保障・人口問題研究所人口動向研究部第1室長）

中国：賀丹（中国人口与發展研究中心主任）

○セッション2 「介護の担い手の確保」

モデレーター：是川夕（国立社会保障・人口問題研究所国際関係部長）

中国：尚少梅（北京大学護理学院院長）

韓国：ユ・エジュン（韓国国民健康保険公団健康保険研究所副研究委員）

日本：堀田聰子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）

○閉会挨拶 相川哲也（内閣府子ども・子育て本部審議官）

（小西香奈江 記）

第二回世帯・居住状態の将来推計に関する国際セミナー

2022年1月13日（木）～14日（金）に、第二回世帯・居住状態の将来推計に関する国際セミナー（The 2nd International Conference and Training Workshop on Household and Living Arrangement Projections for Informed Decision-Making）がオンライン（Zoom）で開催された。セミナーはシンガポール国立大学家族人口研究センターが主催し、国連人口部、アジア人口学会、北

京大学国家発展研究院健康老齡与発展研究中心，中国人口与発展研究中心，シンガポール人口学会の共催で開催された。この会議の第一回は2019年5月に北京大学で開催され，本誌第75巻第3号に掲載の通り，鈴木透副所長（当時）が参加した。今回筆者は今年1月からアジア人口学会の会長となったので，共催者として参加し，冒頭に挨拶を行った。

セミナー第1日目午前は，開会式に続いて北京大学曾毅（Zeng Yi）名誉教授が，自身が開発した出生率，死亡率，移動率を用いた世帯将来推計のプログラム ProFamily に関わる基調講演を行い，その後カナダ，米国カリフォルニア州，ブラジル，イラン，フィリピン，香港における ProFamily の利用例が紹介された。同日午後には，ベトナム，タイ，パキスタン，日本，インド，ネパール，中国における世帯・居住状態の報告，第2日目には ProFamily および R ソフトウェア DemoRates の紹介，および基調講演が行われた。

アジア各国における世帯推計や，世帯・居住状態の報告，特にパキスタンやインド，ネパールといった南アジアの報告があり，目を引いた。世帯推計に直接影響しているわけではないが，パキスタンの2017年センサスでは，性別に男・女・トランスジェンダーの3つの回答枝が導入され，21,700人（総人口の0.1%）がトランスジェンダーだと回答したとのことであった。（林 玲子 記）